

ご挨拶



広州日本人学校
校長 佐保文明

平成23年度は、校長・教頭・事務長をはじめ総勢34名の教職員一人ひとりが自らの役割と責任を果たし、広州日本人学校の「黄金時代」となるよう努力を重ね保護者の教育に対する期待に応える1年となることを目指します。

本校の教育活動については、海外の在外教育施設という特殊性があり、学校設置の母体である、広州日本人学校理事会、PTA、並びに在廣州日本国総領事館等の絶大なる支援と協力を賜っていることを基本的に捉え、日々の教育活動には「安全第一」を掲げ、教育課題解決への積極的な実践と学校・学年行事等の目標達成に創意と工夫を凝らし取り組んでいます。

また、本校はこれまでの学校教職員の努力と取り組みの効果を引き継ぎ、さらに実りあるものへとつないでいきたいと考えています。また、残された課題には、課題解決のために全職員が意欲的に知恵を出し合い、教師集団が一枚岩となり、明るく楽しい学校づくりに取り組んでいます。

次に、平成23年4月から小学校、24年からは中学校においては、新しい学習指導要領が完全実施されます。

本校も新学習指導要領の完全実施に備え、小中各学部では、これまでもスムーズな全面実施に移行できるよう研修と努力を重ねてきました。

今後も一層の工夫を重ねその目標の達成へ全職員で力を結集して参ります。

新学習指導要領では、これからの学校教育では何よりもまず(確かな学力)を、そしてそれを基盤とした(生きる力)を育成していきます。

(確かな学力)は各教科の基礎・基本の確実な定着と学力の向上は当然のことながら、内省の力や規範意識などの道徳心、芸術的な感性の(豊かな心)に裏打ちされなくてはなりません。また、その土台には(健やかな体)の育成も大切なことだと考えています。こうした三位一体的育ちを図っていくことを通じて、子ども一人ひとりに个性的で全人的な成長を実現し、社会に出てからも、また自らの人生を生きていく上でも基盤となる、豊かで強靱な総合的人間力としての(生きる力)が身につくよう努力していきます。

また海外でこそ体験できる異文化体験、現地交流など「多様な体験」も導入し、国際化の進展に伴う「小学校からの英語学習」の充実などの特別な配慮の必要な教育活動にも昨年以上に力を注いでいきたいと考えています。

以上、平成23年度広州日本人学校校長のごあいさつといたします。

何卒、今年もどうぞよろしくお願い申し上げます。